記

一、後援名儀

後援　陸軍省

◎別紙計畫書ノ通リ軍事保護院、恩賜財團軍人援護會、海軍省、大政翼贊會ヘ同時ニ出願中

一、審査願問

陸軍省人事局恩賞課長殿ニ御願申度

一、右ニ關スル連絡者

◎主婦之友社編輯局　青木春男　（電話神田一、一六〇一九）

一、趣旨

名譽ある戰歿軍人の妻並にその子をして永く家門の譽を保持せしむるため凡ゆる部面に亘り官民一體となつて支援協力致してゐるのであるが、その名譽ある軍人の妻を寡婦（未亡人）と謂ひ、その子を遺兒と呼びつゝあるは、その字義から申せば何等差支なく當然のことであるか、その稱呼の耳朶を打つ響は關係者に對しては勿論一般國民に對しても一樣に、如何にも寂しい暗い感じを與へ、一種の哀れさゝへ抱かしむるの感あるは軍人援護の觀點からも甚だ遺憾のことである。

曾て、他國へ產業開發の爲希望を抱いて移住する人々を「移民」と呼んでをつたのをその矜恃を尊重する等の趣旨から「拓士」と改稱したるが如く、戰歿軍人の寡婦（未亡人）並に遺兒の稱呼を、尊敬的な意味を持ち且人々に明朗積極的な感じを與へる稱呼に改むることは蓋し意義深きものありと認め、茲に汎く一般國民に對し適切なる稱呼を募集し、併せて軍人援護の思想昂揚に資せんとするものである。

二、事業

△主催　主婦之友社

△後援　軍事保護院
恩賜財團軍人援護會
陸軍省
海軍省
大政翼賛會

△審査顧問　軍事保護院指導課長
軍人援護會普及課長
陸軍省人事局恩賞課長
海軍省人事局第二課長
大政翼賛會文化部長

櫻井忠溫氏
穗積重遠氏
菊池寛氏
高良富子氏

交渉中

△審査委員　岸富藤大檜
田永村森垣
國昌益久一
士三藏彌美
殿殿殿殿殿

△謝　禮

當　選（「妻」と「子」各一名）

軍事保護院總裁賞並軍人援護會長賞（副賞國債百圓）

佳　作（「妻」と「子」各五名）

二十圓の公債一枚宛

△募集發表　「主婦之友」八月號誌上

△〆　切　八月末日

△發　表　「主婦之友」十一月號誌上

三、經費

後援者負擔の總裁賞・會長賞以外一切の經費は主催者負擔

604

第八號

保存期限	決裁指定	決行指定
十年	局長委任	原川

政務次官 参與官 回付

決裁 前 後 連帶課名 拾年保

陸軍省 16.7.1 第 [illegible] 號 器材課

決行(決裁)後回覽課名

陸軍省 16.7.1 [illegible] 防衛課

陸軍省 16.6.30 第 [illegible] 號 戰備課

受領番號 壹第三三二八號

件名 九三式防空氣球修理ニ關スル件

起元廳(課)名 日本製鐵株式會社

大臣 委

主務局課		
番號	受領	提出
番秘壹發第三一號	昭和十六年六月二十七日	昭和拾六年七月貳日

大臣官房	
受領	了結
昭和 年 七月二日	昭和 年 七月五日

政務次官 委

主務局長

高級副官 川原

主務課長 田中

主務副官 官房 主計 御用掛

主務課員

書記官

参與官

審案 筆記者

決行(決裁)後回覽 連帶

局長 課長 戰

局長 課長 防 部 清

陸普　副官ヨリ日本製鐵株式會社社長ヘ通牒

六月二十五日附特第三八號願出ノ趣認可セラレシニ付

承知相成度及通牒候也

追テ材料配給ニ関シテハ藤倉工業株式會社ヨリ陸軍

兵器本部ニ割當願書ヲ提出セシメラレ度申添候

陸普第五〇一三號　昭和拾六年七月參日

陸普　副官ヨリ陸軍兵器本部次長ヘ通牒

首題ノ件ニ関シ別紙第一ノ通願出有之別紙第二

ノ通認可セラレシニ付通牒ス

陸普第五〇一二三號　昭和拾六年七月參日

別紙第一

特第三八號

昭和十六年六月廿五日

日本製鐵株式會社
社長　平生釟三郎

陸軍大臣　東條英機殿

九三式防空氣球修理ニ關スル件御願

今次支那事變ノ勃發ニ際シ弊社八幡製鐵所防衛ノ目的ヲ以テ昭和十二年九月二十一日附陸密第一〇七六號ニ依リ防空氣球設置方認可セラレ爾來引續キ使用シ來リ候處設置以來相當時日經過セル爲氣嚢三箇ノ内一箇ハ護謨質硬化竝細孔ヲ生シ使用ニ堪ヘサルニ至リ候ニ付テハ之カ修理ヲ陸軍兵器本部管理工場タル藤倉工業株式會社ニ委託致度候條認可相成度別紙下關要塞司令官ノ證明書相添ヘ此段及願出候也

追而之カ修理ニ要スル諸材料ニ付テモ何分ノ御配慮賜リ度申添候

官房控　陸軍

別紙第二

陸軍

九三式防空氣球修理ニ關スル件通牒

陸軍省副官　川原直一

日本製鐵株式會社社長　平生釟三郎　殿

六月二十五日附特第三八號願出ノ趣認可セラレシニ付承知相成度
及通牒候也

追テ材料配給ニ關シテハ藤倉工業株式會社ヨリ陸軍兵器本部ニ
御當願書ヲ提出セシメラレ度申添候

6部

陸軍省受 壹第三三八號

特第三八號

昭和十六年六月二十五日

陸軍大臣　東條英機

日本製鐵株式會社
社長中生勝三郎　殿

陸軍省 昭和 16.6.27 午前 大臣官房

東京市麹町區丸ノ内二丁目二〇番地一
日本製鐵株式會社
電話丸ノ内(23)自一、三四一至一、三四九番

陸軍省 16.6.27 第3 號 器材課

九三式防空氣球修理ニ關スル件御願

今次支那事變ノ勃發ニ際シ弊社八幡製鐵所防衛ノ目的ヲ以テ昭和十二年九月二十一日附陸密第一〇七六號ニ依リ防空氣球設置方認可セラレ爾來引續キ使用シ來リ候處設置以來相當時日經過セル爲氣嚢三箇ノ内一箇ハ護謨質硬化竝細孔ヲ生シ使用ニ堪ヘサルニ至リ候ニ付テハ之カ修理ヲ陸軍兵器本部管理工場タル藤倉工業株式會社ニ委託致度候條認可相成度別紙下關要塞司令官ノ證明書相添ヘ此段及願出

日本標準規格 B5 16. 2. 100×500 横

候也

追而之ヵ修理ニ要スル諸材料ニ付テモ何分ノ御配慮賜リ度申添候

東京市麹町區丸ノ内二丁目二〇番地一
日本製鐵株式會社
電話丸ノ内(四)自一、三四一至一、三四九番

日本標準規格 B5 16, 2. 100×500 箋

證明書

一、九三式防空氣球氣嚢　壹個

右ハ日本製鐵株式會社八幡製鐵所所有ニ係ルモノニシテ戰時軍ノ指導ニ依リ北九州ノ防空ニ使用スルモノナルコトヲ證明ス

昭和十六年四月七日

下關要塞司令官山地坦

陸軍

陸普第五〇一三號

九三式防空氣球修理ニ關スル件通牒

昭和拾六年七月參日　陸軍省副官　川原直一

日本製鐵株式會社社長　平生釟三郎　殿

六月二十五日附特第三八號願出ノ趣認可セラレシニ付承知相成度及通牒候也

追テ材料配給ニ關シテハ藤倉工業株式會社ヨリ陸軍兵器本部ニ割當願書ヲ提出セシメラレ度申添候

陸軍

第九號

已南聯發第三四
昭和十六年六

陸軍
復員
軍人
援護
局

拾年保

標記ガナシ
之脚ノ
家ノ
結

貴殿

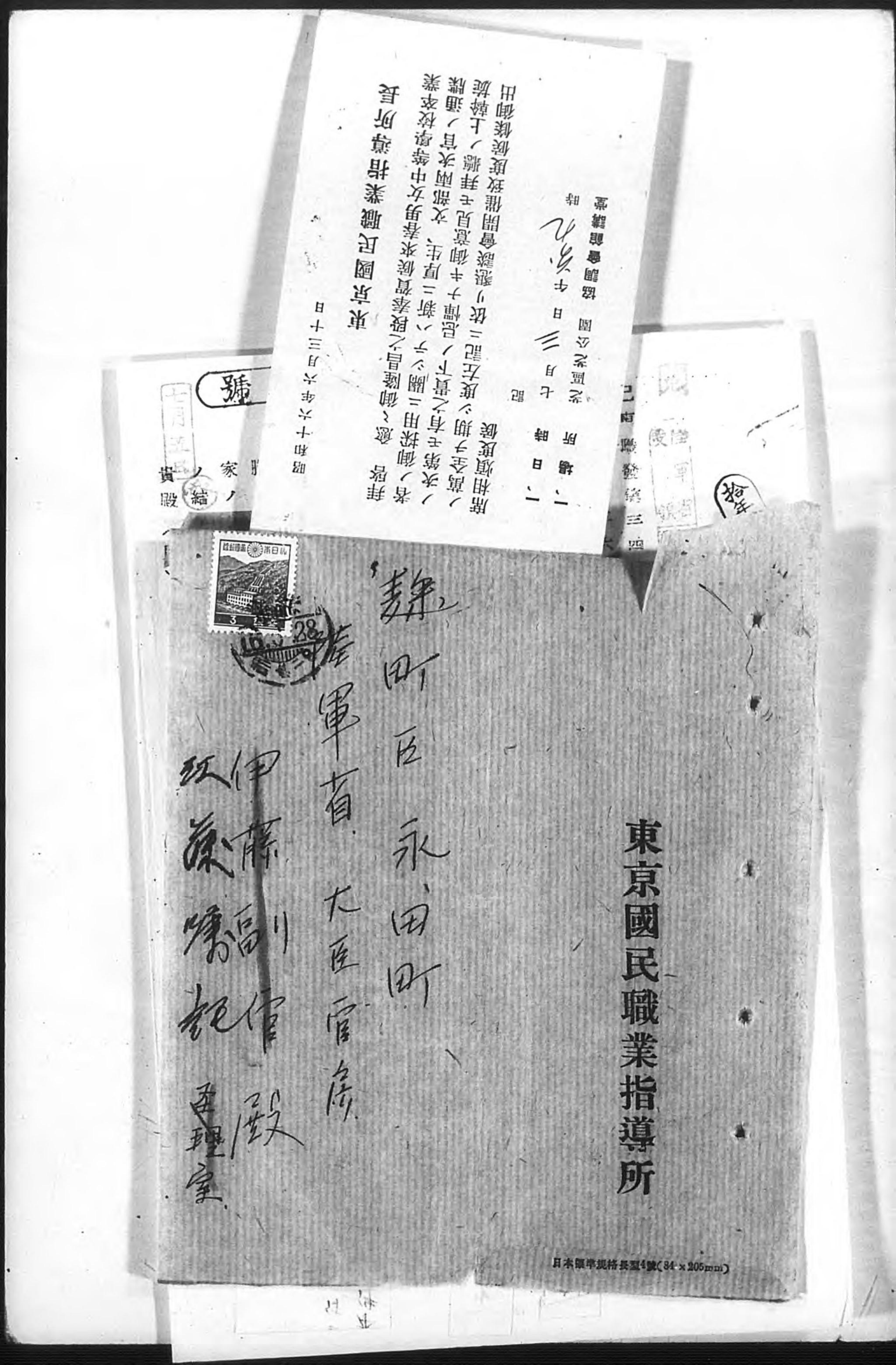
郵便はがき

麹町区
陸軍省
大臣官房
甲藤別官
殿

東京國民職業指導所

東京國民職業指導所

日本標準規格長型4號(84×205mm)



東京國民職業指導所

日本標準規格長型4號(84×205mm)

東京國民職業指導所長

昭和十六年六月三十日

拝啓　愈〻御隆昌之段奉賀候扨来春勇女中等學校卒業者ノ御採用ニ關シ厚生、文部兩次官ノ通牒ノ次第モ有之貴下ノ貴校左記ニ依リ懇談會開催致度候御出席相煩度度候

記

一、日時　七月　日　午後三時

一、場所　麹町區麹町公園　協調會館講堂

敬具

東京國民職業指導所

所長　永田町

伊藤

殿

文部大臣　官房

厚生大臣　官房

軍省

玖島

殿

結

家ノ

殿

四七號

八月二十五日

東京國民職業指導所長

殿

中等學校生徒（上級生）及專門學校大學在學生ニ對スル夏期職業訓練實施ニ關スル

一關シテハ從來實施ノ向ニ對スル希望申出モ有ヲ

職業訓練ヲ計畫實施シ以

スル勞務動員計畫遂行一

ニ相當數ノ希望者有之候ニ付テハ御貴所ニ於カレテモ右趣旨ニ御賛同ノ上特ニ防諜關係等支障ナキ

陸軍省 昭和 16.7.1. 大臣官房
陸軍 昭和 16.7.1. 第 課 國民課
軍省 7.2. 課

七號
月二十五日

東京國民職業指導所長

殿

中等學校生徒（上級生）及專門學校大學在學生
對スル夏期職業訓練實施ニ關スル件

關シテハ從來實施ノ向モ有之ヤニ被存候處學校當局ヨリモ
一應スル希望申出モ有之本年度ハ當所ニ於テ國家的見地ニ立
職業訓練ヲ計畫實施シ學生生徒ノ時局認識ヲ深ムルト共ニ國
ハル勞務動員計畫遂行ニ寄與致度趣旨ヲ以テ學校當局ト聯絡
ニ相當數ノ希望者有之候ニ付テハ御繁忙中誠ニ恐縮ニ候ヘ共
ニ於カレテモ右趣旨ニ御賛同ノ上特ニ防諜關係等支障ナキ

陸軍省 昭和 16.7.1. 前午 文書官房
陸軍省 昭和 16.7.1. 第 課 恩賞課
陸軍省 16.7.2. 工政課

輔導部關係

当課ニ於テ

恩賞課

本件ニ關シテハ學校當局ト直接交渉致スヘ
ニ付本件希望ナレ

工政課

限リ適當ナル職場ニ於テ之等學生生徒ノ御使用方御高配相煩度此段得貴意候

追而御希望ノ向ハ左記樣式ニ依リ來ル七月五日迄ニ必着ヲ期シ御回報相煩度實施ニ關スル具体的事項ニ付テハ後日聯絡致度

（様式）

昭和十六年度　男女中等學校
專門學校、大學　夏期職業訓練實施申込書

年　月　日申込

求人者
住所

電話

印

學歴別＼区分	大學專門	男子中等	女子中等
実施場所			
申込員数			
職務			
報酬			
就業期間			
就業時間			
休日及休憩			
備考			

備考

備考

一、職務ハ其体的ニ之ヲ記シ熟練ヲ要スルモノハ其旨記入スルコト

二、報酬ハ大体一日事務中等生一圓　専門大學生一圓二十錢程度ニ止メ度

（尚　男子ニアリテハ半労働的業務モ支障無之）

三、期間ハ「一期間十日」トシ六日ヨリ八日迄ノ間ニ於テ三期間ヲ超エサルコト

四、就業時間ハ午前八時ヨリ午后四時迄ト致シ度

注意
（本審案用紙八三三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス）

第一〇一號

保存期限 三年
決裁指定 局長
決行指定

政務次官参與官回付 決裁前後
連帶課名 軍務 航本
受領番號 壹第二六九七號
件名 航空許可ニ関スル件
起元廳（課）名 讀賣新聞社
決行（決裁）後回覧課名

陸軍

大臣 委

政務次官 参與官 書記官 審案筆記者

主務局長 次官 委

主務課長 高級副官 主務副官 官房主計 主務課員

主務局課

番號	受領	提出
防衛甲第三四一号	昭和 年 月 日	昭和拾六年七月貳日

大臣官房

受領	結了
昭和 年 七月二日	昭和 年 七月七日

連帶 局長 課長

決行（決裁）後回覧 局長 課長

陸普　　副官ヨリ出願人ヘ通牒（東京築地警察署ヲ経由）

四月十六日附出願首題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行規則第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

追而外地ニ於ケル航空ニ関シテハ現地軍ノ指示ヲ受ケラレ度申添フ

許可證　陸普第五〇三一號　昭和拾六年七月參日

306
3

一、行為　東京市京橋區銀座三丁目一番地　讀賣新聞社

一、場所（區域）　別紙第一ノ通

一、本證有效期間　自昭和十六年七月三日　至昭和十六年十月三十日

一、條件　別紙第二ノ通

許可證ニハ報告書一通ヲ添付セラレ度

陸普　副官ヨリ東部、中部、西部、朝鮮、関東
各軍参謀長及支那派遣軍総参謀長ヘ通牒

首題ノ件ニ関シ別紙甲號ノ出願アリ乙號ノ通許可
セラレタルニ付依命通牒ス

通牒先　東部、中部、西部、朝鮮、関東各軍司令官
支那派遣軍総司令部

陸普第五〇三一號　昭和拾六年七月參日

陸軍

別紙第一

昭和十二年陸軍省令第四十三號軍機保護法施行規則第五條航空禁止區域ニ於ケル左記航路ニ依ル航空

（同年陸軍省令第四十四號関東州ニ於ケル軍機保護ニ関スル件第一條ノ規定ニ依リ）

東京ー大阪ー福岡

京城ー平壤ー奉天ー新京

京城ー大連ー北京

京城ー青島ー濟南ー南京ー九江ー漢口

福岡ー上海ー南京ー九江ー漢口

福岡ー臺北ー臺南ー廣東

別紙第二

一、要塞地帯[illegible]又陸軍輸送港域ノ上空ノ航空ヲ禁ス

二、関東州ニ於テハ都家甸子(小窰湾西北岸)ノ小孤山會ノ和尚屯(大窰湾西岸)ノ柳樹屯部落北端ノ老龍頭ノ甘井子ノ沙河口會石家屯ヲ連ヌル線ノ東方及南方並石家屯ノ岔溝會史家旺山ノ營城子駅ノ黄龍尾屯ヲ連ヌル線ノ南方及西方ノ地域ノ航空ヲ禁ス

三、関東州防禦營造物地帯上空ノ航空高度ハ三百米以下タルベシ

四、寫眞機及望遠鏡等ノ使用ヲ禁ス

五、必要アリト認ムル場合ハ陸軍官憲ヲ搭乗セシメ若ハ本條件ヲ変更シ又ハ本航空ヲ中止セシムルコトアリ

築特商第一七八三號

意見書

本籍　東京市芝區三田四國町二番地一号
住所　東京市京橋區銀座西三丁目一番地　讀賣新聞社
職業　讀賣新聞社々長
氏名　正力松太郎
明治十八年四月十一日生

右者別紙ノ通リ軍機保護法施行規則第四條ニ依リ統
空許可方申請アリタルニ付調査ナシタルニ左記ノ通リニシ
テ御許可可然ニノト思料セラル

記

本籍 住所 氏名 職業 年令（官公衛名）	日時 場所 出発 通過 到着 通過 目的地	目的 方法
（願書ノ通リ）	（同　右）	（同　右）

使用器具類（飛行機ノ種類型式及其ノ馬力）	國籍登録記號	作業者若ハ乗員ノ住所氏名技倆證明及免許種類	本人及作業者並ニ乗員ノ經歴	教育ノ程度思想	生活狀態及資産	而シテ有無	其他ノ參考事項	
（同	（同	（同	（同	明治四十四年帝國大學獨法科卒業ス 警視廳警務部長タリ 思想堅實ナリト認ム	讀賣新聞社ニ長年勤年收五万円生活上流ナリ 讀賣新聞社ハ資本金二〇〇万円ニシテ航空部ハ二十人オ第奇ニス	ナシ	日支事変ニ際シ申請ナシオリ 都度（昭和十三年十二月中請ス）乗員ノ作業者ニ変更ナシ	

昭和十六年四月十八日

東京築地警察署長　須田

陸軍大臣　東條英機　殿

勇
警視廳
警視印

二六九七

航空許可願

本籍　東京市芝區三田四國町二番地
現住地　東京市京橋區銀座西三丁目一番地讀賣新聞社
職業　讀賣新聞社長
氏名　松太郎
明治十八年四月十一日生

昭和十六年四月十六日

陸軍大臣　東條英機殿

左記ノ通リ航空致度軍機保護法施行規則第五條ノ規定ニ依リ許可相成度候也

左記

一、目的　新聞掲載用寫眞及映畫フイルム空輸ノ爲ノ往復飛行
二、出發地　出發日時（期間）讀賣飛行場發
自昭和十六年六月一日
至昭和十六年十一月卅日（六ケ月間）
三、通過地（着陸地）

陸軍省 昭和16 5 27 午後 大臣官房
陸軍省 16.5.27 調査
陸軍省 16 5 29 特高課 1629 臨時調査係

東京―大阪―福岡―京城―平壤―奉天―新京
　　　

八 乘員ノ現住地、氏名竝ニ乘員ノ技倆證明及免狀ノ種類

操縱士住所　東京市京橋區銀座西三ノ一讀賣新聞社航空部（兩名共）

一等飛行機操縱士　一等航空士　諏訪宇一

一等飛行機操縱士　二等航空士　梶原晉二郎

同乘者住所　東京市京橋區銀座西三ノ一讀賣新聞社航空部（兩名共）

航空機關士　吉川政義

同　石橋雅雄

九 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

右通過地ハ定期航空ノ線ニ依リ當局ヨリ御示指ノ事項嚴守ノ上各地共指定サレタル高度ニテ飛行ス

操縱士
諏訪宇一

操縱士
梶原音二郎

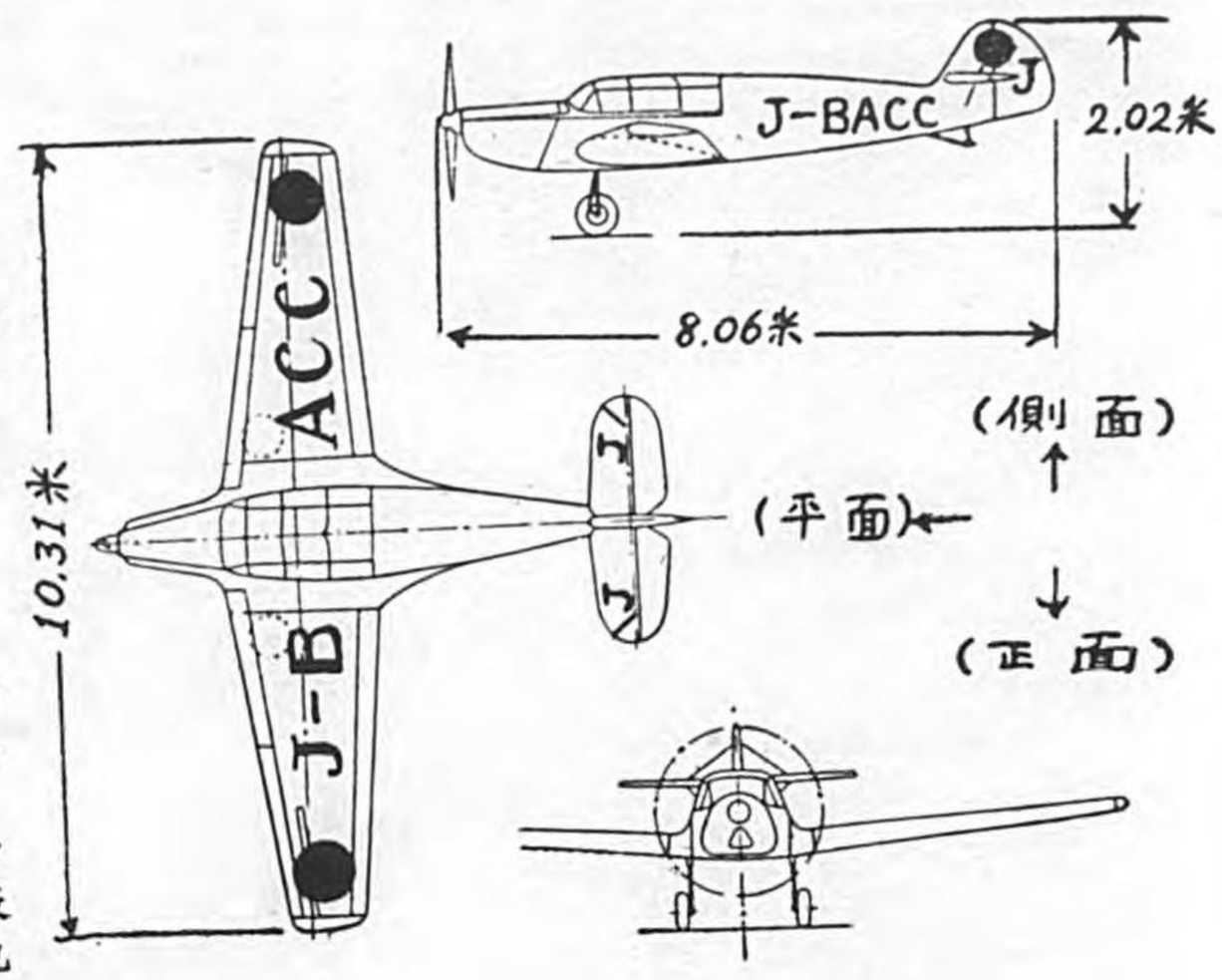
陸軍

機罪士
吉川政義

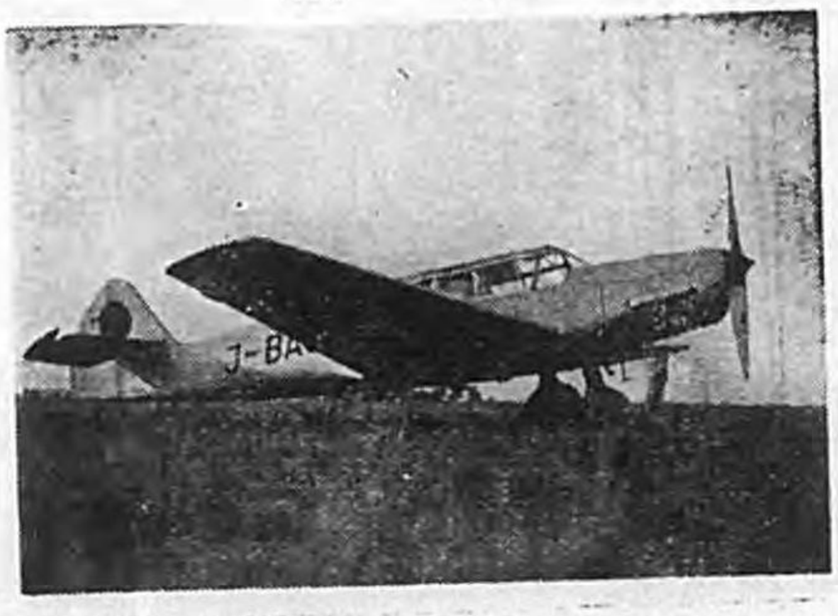
機罪士
石橋雅規

讀賣新聞第六號機見取圖

機　体　B.F.W式B.F 108 B型
發動機　アルグス A. S. 10C型
型　式　低翼單葉引込脚
標　識　J—BACC
但主翼上下兩面及胴體兩側面ニ付シ、國籍記號Jヲ水平安定板上下兩面及方向舵兩側面ニ付ス
性　能　最大速度　300キロ
巡航速度　260 〃
特　色　1. 陸軍色カムフラージ
1. 胴體下面中央ニ太キ赤色縱通線
1. 尾部ニ白一線ヲ卷ク
1. 主翼兩端上下兩面及方向舵兩面ニ日ノ丸



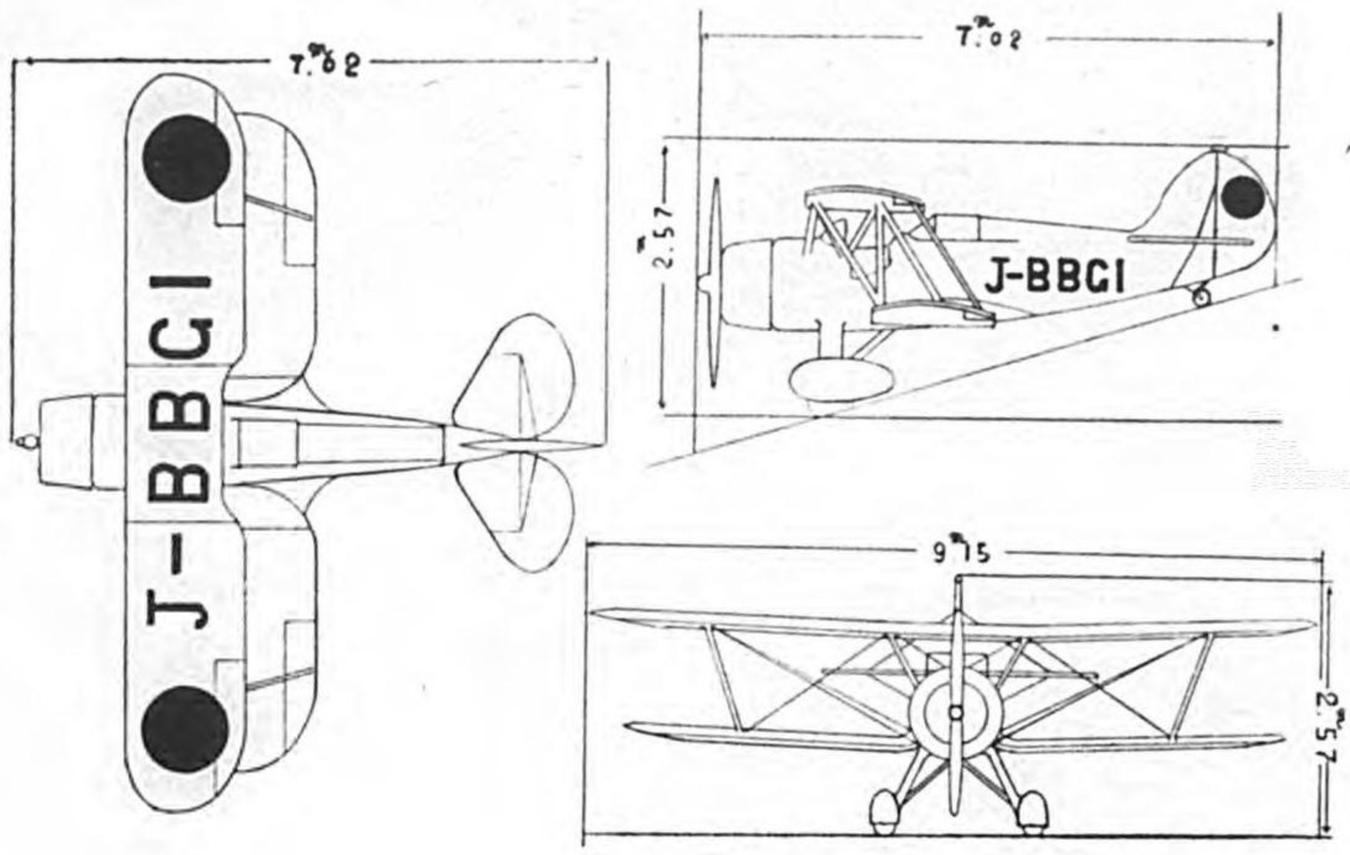
(側　面)



(飛翔中)

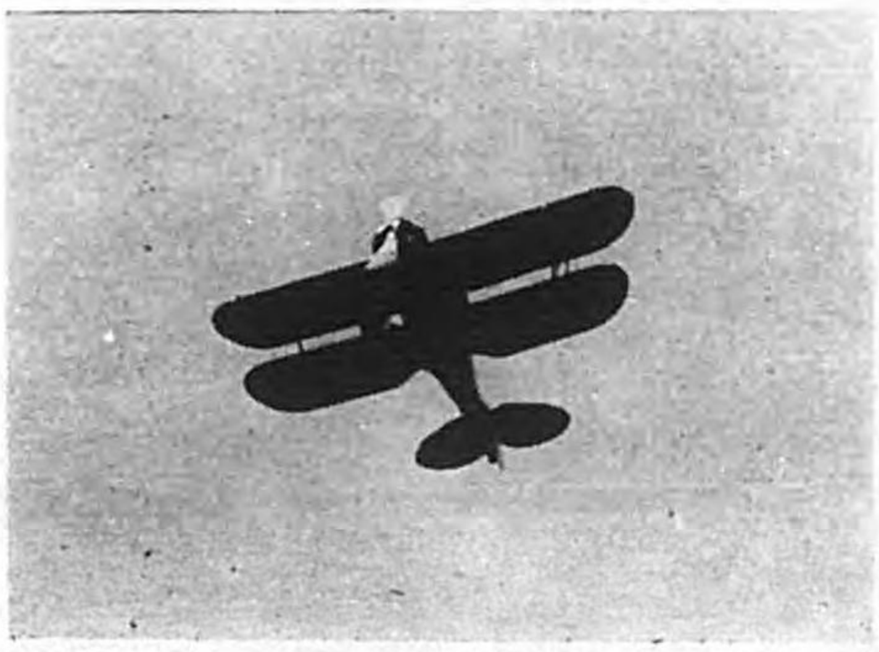
讀賣新聞第七號機見取圖

機　体　ワコ式YPF七型
發動機　ジャコブス L四M型
型　式　復葉喰違
標　識　J—BBGI
但上翼上面下翼下面及胴體兩側面ニ付シ、國籍記J號ヲ水平安定板上下面及方向舵兩側面ニ付ス
性　能　最大速度　240キロ
巡航速度　210キロ
特　色　1. 大體ハ濃籃色ニシテ上下主翼水平安定板ノ前椽及カウリングノ前圓周ヨリ胴體兩側ニ流線型ニ朱色ノ椽取リアリテ金椽ヲ有ス
2. 上翼上面ノ兩端下翼下面ノ兩端及方向舵ニ日の丸ヲ付ス



（飛　翔　中）

（側　　面）



七月七日

第一一一號

秘

書留

陸軍省受領 壹第三三四九號

理第一一一號

昭和十六年六月十四日

日本製鐵株式會社
社長 釘三郎

陸軍大佐 河原直一 殿

陸軍省副官

拝啓 昭和十一年六月二十日附陸密第五一二號官房機密第一六三〇號ノ二ヲ以テ弊社ニ貯藏ヲ命ゼラレ候鐵鑛石ノ昭和十六年五月三十一日現在高調書別紙ノ通リ提出仕候間進達方可然御取計被成下度此段奉願候也

敬具

日本製鐵株式會社
東京都麹町區丸ノ内二丁目二〇番地一
電話丸ノ内(23)自一、三四一至一、三四九番

陸軍省 昭和16.6.28 前十時 受領 官印

陸軍 16.6.28 戦備課

日本標準規格 B5 16, 2. 100×500 楮

第一二號

保存期限	決裁指定	局長委任	決行指定
三年			

受番	領號	件名
壹第二七五九號		保護自動車一部構造変更ノ件

起元廳(課)名	決行(決裁)後回覧課名
釜山交通株式會社	

政務次官 同付 決裁 前 後 連帶課名

主務局課	受領	提出	大臣官房	受領	結了
番號 機械壱第八八號	昭和拾六年五月廿壹日	昭和拾六年五月廿壹日		昭和 年 六月二日	昭和 年 七月九日

大臣 委

政務次官	次官	主務局長
	委	

參與官	高級副官	主務課長
		代

書記官	主務副官 官房御用掛 主計	主務課員

審査筆記者

連帶	決行(決裁)後回覧
局長	局長
課長	課長

決行(決裁)後回覧課名

極秘

慶尚南道知事經由

陸普

釜山交通株式會社
代表取締役 荒井初太郎ヘ指令

五月二十日附出願ニ係ル已種保護伺動
車第二五二六號ニ瓦斯發生爐設置ノ
件許可ス
但シ揮発装置ハ其儘存置シ瓦斯発生爐添
加装置ハ收用其他ノ際ハ取除キ提出スヘシ

陸普第四一一號

昭和拾六年六月參日

官印

機械

大臣

二七五九

慶南警兵第六八號

昭和十六年五月二十六日

慶尚南道知事

陸軍大臣殿

軍用保護自動車代用燃料機設置ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通リ許可申請アリタルニ付軍用自動車補助法施行細則第九條ニ依リ

進達ス

軍 昭和 16.5.29 午後 官房 文書課
慶尚南道 16.5.30 第88號 機械課

陸軍大臣殿

瓦斯發生爐設置認可申請書

當社所有陸軍保護六輪自動車ニ別紙ノ通リ國産式アセチレン瓦斯發生爐設置致度候條御認可被下度此段及申請候也

昭和十六年五月二十日

慶尚南道釜山府水晶町三〇番地ノ一
釜山交通株式會社
代表取締役　荒井初太郎

一、瓦斯發生爐ヲ設置スル車輛ノ種類及保護番號

(イ) 保護番號　「六」第二五二六號

(ロ) 保護期間　自昭和十四年三月三十日　至昭和十八年三月三十日

(ハ) 車輛（原動機）ノ種別　イスズ

(ニ) 年式　一九三九年式

(ホ) 氣筒　六氣筒

(ヘ) 馬力　三〇馬力

(ト) 車輛（原動機）番號　第三〇三一號、慶南第一二二三號

(チ) 車体番號　第一六〇三號

(リ) 用途　旅客自動車運輸事業用

二、瓦斯發生爐ノ型式及種類並其ノ製作者ノ住所氏名

(イ) 型式及種類　B型下部濕潤式國產式アセチレン瓦斯發生爐

(ロ) 製作者住所　第五五九號

(ハ) 右氏名　京城府新堂町二一三ノ八　國產燃料工業株式會社　專務取締役　增田國司

三、瓦斯發生爐ノ取付方法

(イ) 取付工場名　釜山交通株式會社サービス部

(ロ) 取付略圖　別紙ノ通リ

四、瓦斯發生爐ニ使用スル燃料ノ種類

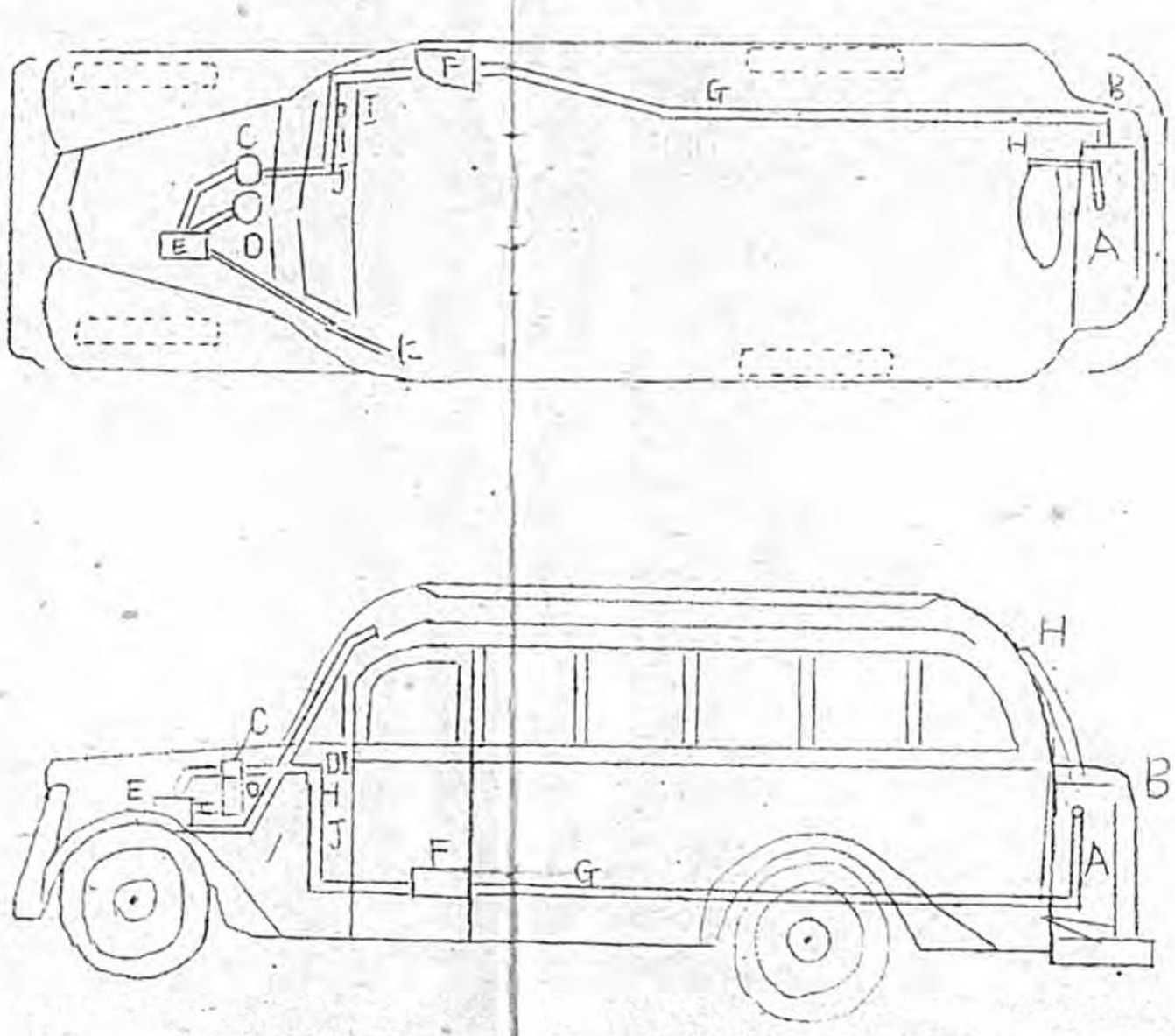
カーバイト

五、申請ノ事由

當社ニ於テハ旅客運輸事業用自動車十一輛ヲ以テ運營シ居ルガ本期揮發油申請量三五、二五八立ニ對シ揮發油購入證交付數量一一、五二〇立ニシテ前期ノ交付數量ニ比シ一、九九八立ノ減少前々期ニ比シ三、〇六〇立ノ減少御交付ヲ相受ケ申候ニ就キ當初ヨリ各車輛ニ對シ一日消費數量ヲ割當テ戰時時局下ノ揮發油消費節約ヲ高唱シ乘務員ノ煥起ヲ督勵シ國策ニ順應スベク極力消費節約ニ努力シツヽアルモ前期ノ通リ御交付ノ減少ト將又旅客激增ニ伴ヒ揮發油ノミニテハ運行至難ノ狀勢ニ在リ且ツ時局ノ趨向ニ鑑ミ代用燃料タルアセチレン瓦斯發生爐モ目下三輛ニ具備使用中ナルモ燃料不足ニヨリ毎期揮發油購入證交付追加申請ニ及ビ居ル現狀ナルガ時局ハ益々强化逼迫スルニ伴ヒ揮發油ノ配給モ益々減少ノ情勢ヲ辿リツツアルヲ以テ今回陸軍保護自動車ニ發生爐設置シ揮發油節約ト相俟ツテ旅客運輸事業ノ萬全ヲ期セントスルニ在リ

國産式

アセチレン瓦斯發生裝置取付圖（バス用）



A	瓦斯発生器
B	発生器カバー
C	安全器
D	水タンク
E	混合器
F	清浄器
G	連通管
H	排気煙突
I	プレッシャーゲージ
J	調節バルブ
に	通気煙突

京城府黄金町壱丁目一四三番地
國産自動車株式會社

大桃 1 2759 代 機密

第三六五一

陸軍省 昭和 16.7.6. 午前 大臣官房

慶南警兵第六八號

昭和十六年七月三日

慶尚南道知事

陸軍大臣殿

保護自動車一部構造變更

ノ件

昭和十六年六月三日附陸普第

四一一號ヲ以テ許可指令アリタル

陸軍省 16.7.8 第98 機械課

慶尚南道

已種保護自動車、第二五二六號ニ
對スル質問ノ件ニ關シ之ガ設置道
ヲ了シタル上別紙ノ通リ届出アル
リタルニ付軍用自動車、補助
法施行細則第九條ニ依リ
進達ス

〔了〕

瓦斯發生爐設置屆

昭和十六年六月三日附陸普第四一一一號ヲ以テ保護目動車一部構造變更ノ件指令ニ基キ已横保護目動車第二五二六號ニ昭和十六年六月十五日瓦斯發生爐設置致候間此段御屆候也

昭和十六年六月十五日

慶尚南道釜山府水晶町三〇番地ノ一
釜山交通株式會社
代表取締役　荒井初太郎

陸軍大臣殿

保存期限	決裁指定	決行指定
三年	局長	

第一四

政務参與官回付	決裁前後	連帶課名
拾年保		軍務 参本 航本

受領番號	件名
壹第二六〇五號	航空許可ニ關スル件

起元廳(課)名	決行(決裁)後回覽課名
中華航空株式會社	陸軍

大臣	政務次官	主務局長	次官	高級副官	主務課長	主務副官 官房御用掛 主計	主務課員	書記官	審査筆記者
奏		代	奏		代				

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
防衛甲第三一七號	昭和 年 月 日	昭和拾六年六月拾九日	昭和 年 六月十九日	昭和 年 七月十日

連帶	決行(決裁)後回覽
局長	局長
課長	課長

陸普

四月二十一日附出願首題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行規則第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

副官ヨリ出願人ヘ通牒（上海憲兵隊 經由）

運航第十六號

陸普第四六一二號　昭和拾六年六月拾九日

第　號　許可證

三〇三

北京

中華航空株式會社

一、行　爲　定期航空、臨時航空及此等ノ爲ニスル空中輸送

一、場所（區域）　別紙第一ノ通

一、本證有效期間　自昭和十六年七月一日　至昭和十六年十二月三十一日

一、條件　別紙第二ノ通

1、要塞地帶上空ノ航空ヲ禁ス

2、本航空ニハ寫眞機、望遠鏡等ノ使用ヲ禁ス

3、必要ニ應シ陸軍官憲ヲ搭乘セシメ若ハ條件ヲ變更シ又ハ本航空ヲ中止セシムルコトアリ

陸普　副官ヨリ臺灣軍參謀長ヘ通牒

五月十九日附臺參經由第一七號ヲ以テ進達ニ係ル首題ノ件別紙ノ通許可セラレタルニ付依命通牒ス

追而許可證ハ上海憲兵隊經由ニテ出願人ヘ送付シ置キタルニ付爲念申添フ

陸普第四六一二號　昭和拾六年六月拾九日

陸普　副官ヨリ支那派遣軍總參謀長ヘ通牒

首題ノ件ニ関シ別紙甲號ノ出願アリ乙號ノ通許可セラレタルニ付依命通牒ス

陸普第四六一二號　昭和拾六年六月拾九日

陸軍

別紙　第一

昭和十二年陸軍省令第四十三號軍機保護法施行規則第五條ノ航空禁止區域ニ於ケル左記航路ニ依ル航空

上海ー臺北ー廣東

陸軍

上憲警第三一五號

航空許可願ニ關スル件報告

昭和十六年五月十三日　上海憲兵隊長　納見敏郎

陸軍大臣　東條英機殿

中華航空株式會社ヨリ首題ノ件ニ關シ別紙ノ通リ願出アリタルカ本件ハ軍機保護法施行規則第五條ニ依ル許可支障無之ニ付報告ス

追而本件ハ現ニ運航シアルモノヲ更ニ期間ヲ延長セントスルモノナルニ付申添フ

（了）

發送先

陸軍大臣

(鶴谷奥・京東)

興亞院華北連絡部經由
上海憲兵隊經由
臺灣軍司令官經由

運航第一六號

航空許可願

昭和十六年四月二十一日

原籍 山口縣熊毛郡徳山町四〇〇九
現住所 北京 中華航空株式會社
總裁 兒玉常雄
明治十七年三月十九日生

陸軍大臣 東條英機殿

左記ノ通航空致度軍機保護法施行規則第五條ノ規定ニ依リ許可相成度候也

記

一、目的

(1) 旅客、貨物及郵便物輸送實施ノ爲ニスル上海、廣東間定期航空及臨時航空

陸軍省 昭和 16.5.23 大臣官房

陸軍省 16.5.23 534 防衛課

興亞院華北連絡部經由 昭和16年4月24日 三五

上海憲兵隊經由 昭和十六年五月十二日

臺灣軍司令官經由 昭和16年5月19日受 第一七號

但シ台北飛行場ニ於テハ燃料補給ノ爲離着陸ヲ行フノミニテ一般ノ旅客、貨物及郵便物ヲ取扱ハス

(2) 定期航空及臨時航空ノ爲ニスル空中輸送

二、出發地、出發日時、通過地、到着地、到着豫定時刻

別紙甲ノ通

三、航空機ノ種類、機体ノ型式、發動機ノ型式及馬力、國籍記號並ニ登錄記號

別紙乙ノ通

四、乘員ノ住所、氏名並ニ乘員ノ技倆證明書及免狀ノ種類

別紙丙ノ通

五、許可期間

自 昭和十六年七月一日

至 仝 年十二月卅一日

六、其ノ他

添附寫眞各四葉（乘務員）

中華航空株式會社

別紙甲

區間	上海—台北—東廣			
	上海←東廣		東廣←海上	
出發地	上海	台北	東廣	台北
出發日時	九〇〇（毎週月水金）	一二三〇（毎週月水金）	九〇〇（毎週火木土）	一二五五（毎週火木土）
通過地	上海—舟山島—角山別島—彰佳嶼—富貴角—淡水—台北	台北—新竹—遮浪角—廣東	廣東—遮浪角—新竹—台北	台北—淡水—富貴角—彰佳嶼—角山別島—舟山島—上海
到着地	台北	廣東	台北	上海
到着豫定時刻	一一五〇	一六〇〇	一二一五	一五四五

別紙 乙

種別	國籍	國籍記號登錄記號	型式	發動機型式	馬力	備考
旅客機	中華民國	C-一五〇一	ダグラス式 DC Ⅲ型	ライトサイクロン SGR一八二〇G二型	八五〇	發動機二基付
〃	〃	C-一五〇二	〃	〃	〃	〃
〃	〃	C-一〇〇一	ダグラス式 DC Ⅱ型	ライトサイクロン SGRF五二一型	七五〇	〃
〃	〃	C-一五一〇一	三菱式 MC二〇型	九七式八五〇馬力（八五）	八五〇	〃
〃	〃	C-一五一〇二	〃	〃	〃	〃
〃	〃	C-一二〇〇九	ロッケヒード式 一四WG三型	ライトサイクロン GR一八二〇G二B型	八四〇	〃
〃	〃	C-一二〇一〇	〃	〃	〃	〃
〃	〃	C-一五〇〇一	九七重爆改造型	九七式八五〇馬力（八五）	八五〇	〃
〃	〃	C-一五〇〇二	〃	〃	〃	〃
〃	〃	C-一五〇〇三	〃	〃	〃	〃

別紙　丙

住所	氏名	技倆證明書	免狀
上海施高塔路二九〇 中華航空株式會社 上海支社	加賀要助	日本一等飛行機操縱士 日本一等航空士	日本一等飛行機操縱士 日本一等航空士
	安部藤平	〃	〃
	鳥居清次	日本一等飛行機操縱士 日本二等航空士	日本一等飛行機操縱士 日本二等航空士
	梯敏男	〃	〃
	柴田龍男	〃	〃
	江島三郎	〃	〃
	鈴木伴次	〃	〃
	山形德衞	〃	〃
	佐藤清志	〃	〃
	熊谷義則	〃	〃
	神田好武	〃	〃
	和久田善雄	〃	〃
	池内秀太郎	〃	〃
	山口清	〃	〃
	水野博	〃	〃

藤吉實	〃	一級通信士	一級通信士
森屋金兵衛	〃	一級通信士	一級通信士
稲田正	〃	〃	〃
小八重正里	〃	〃	〃
浪本武義	〃	〃	〃
藤岡武	〃	〃	〃
飯野金作	〃	〃	〃
下谷清之	〃	〃	〃
永島光次郎	〃	〃	〃
岩本品三	二級通信士	二級通信士	〃
竹田義雄	〃	〃	〃
小澤昇治	〃	〃	〃
小濱純一	〃	〃	〃
川邊昇	〃	〃	〃
濱崎勇眞	〃	〃	〃
本多正彦	〃	〃	〃

平藤部安士縱操

助要賀加士縱操

男敏梯士縱操

次清居鳥士縱操

操縱士 柴田龍男

操縱士 江島三郎

操縱士 鈴木伴次

操縱士 山形德衛

操縱士 池内秀太郎

操縱士 山口清

操縱士 水野博

操縱士 奥村十郎

二好浦須士縱操

司悌谷熊士縱操

平瀾伯佑士縱操

吉嘉岡士縱操

博　垣板士縱操

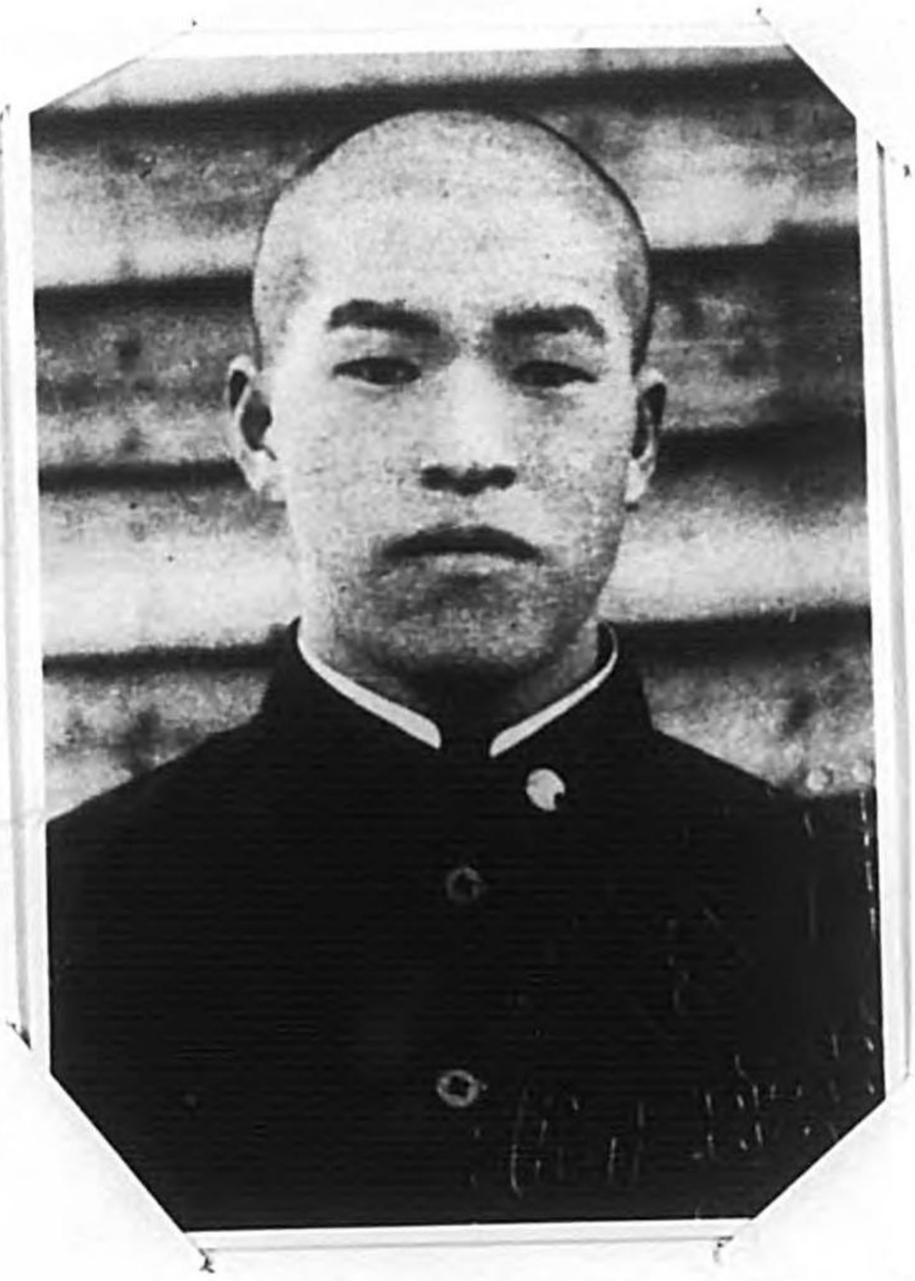
助　大村西士縱操

直重　原藤士縱操

年十　田福士縱操

郎三藤加士縱操

淳光吉士縱操



祐貞　荻士縱操

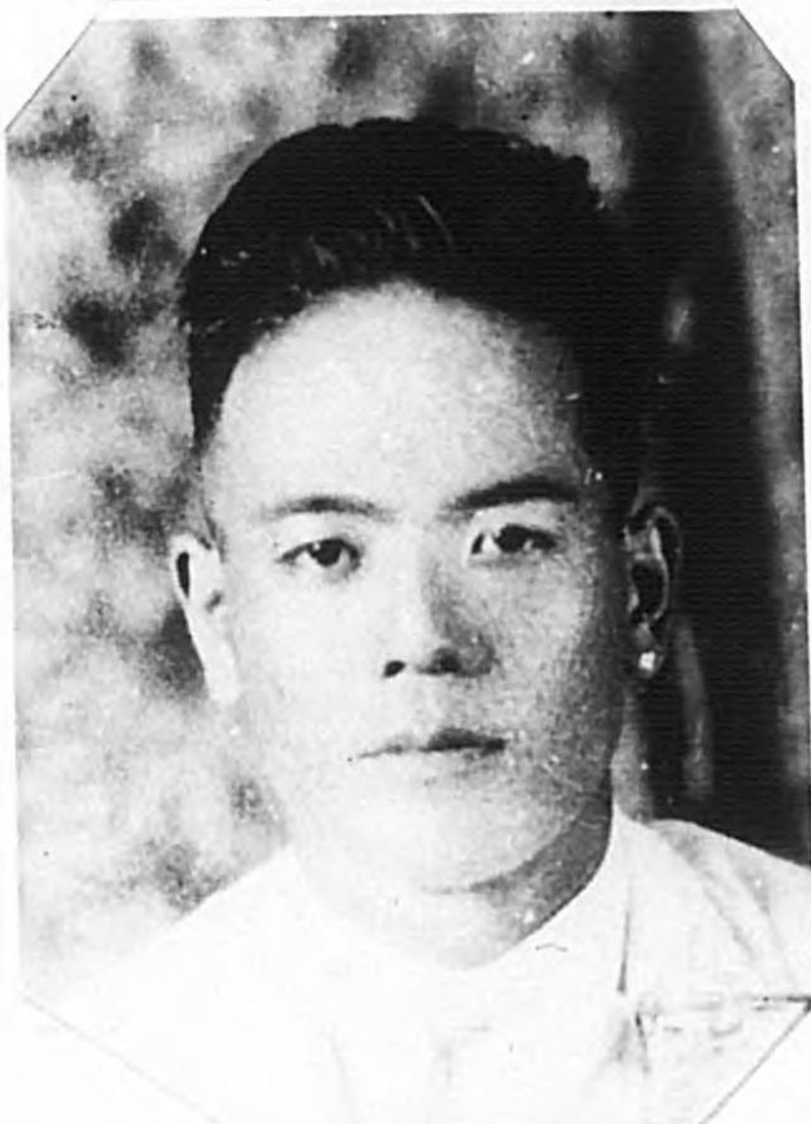
治啓木植士縱操

勇　岡平士関機

平　理田岡士関機

一甚木椎士関機

平満井酒士関機



一国野佑士関機

一幸田山士関機

敏眞山古士関機

太百八藤新士関機

機関士 石井敏三

機関士 和田一雄

機関士 奥野正一郎

機関士 武石静雄

機関士 佐野直敏

機関士 山口泰次

機関士 山田圭一

機関士 石津啓

次雅月若士關機

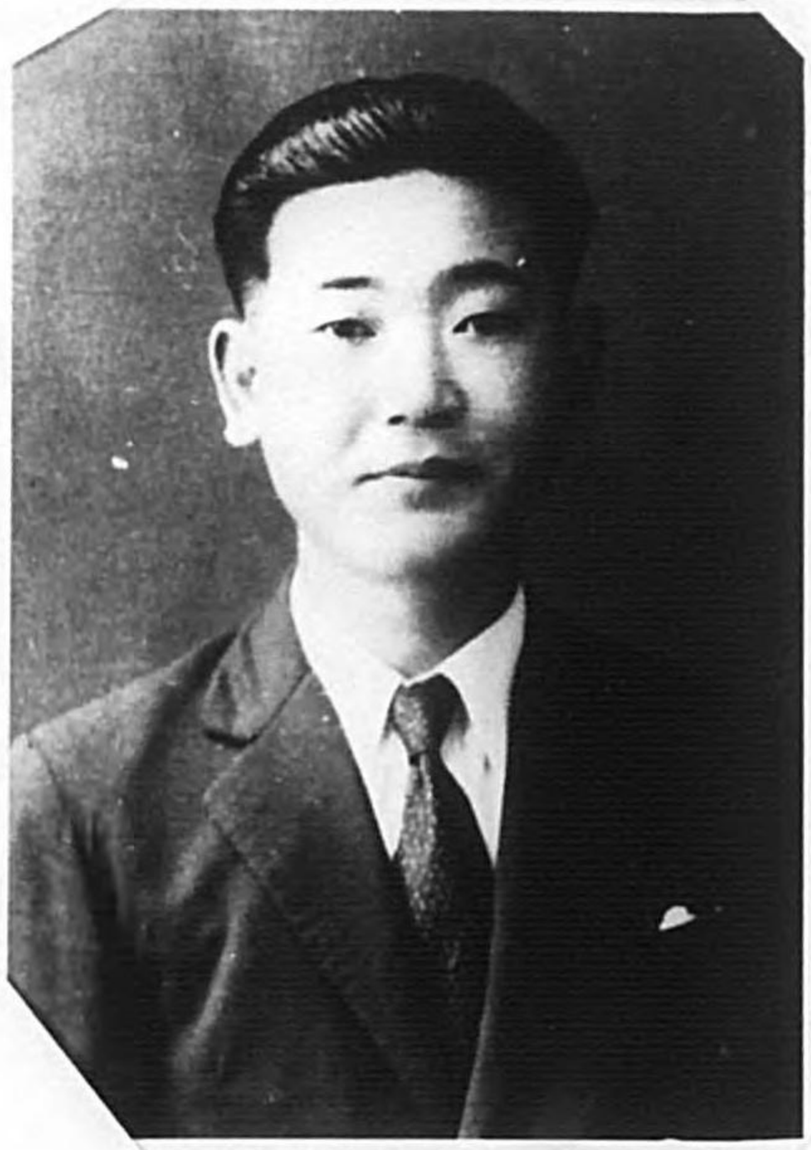
一亮川西士關機

吳吉藤士關機

8

正田稲士信通

衛兵金屋森士信通



義武本浪士信通

里正重八小士信通

作金野飯士信通

武岡藤士信通

郎次光島永士信通

之清谷下士信通

通信士　竹田義雄

通信士　岩本品三

通信士　小浜純一

通信士　小澤昇治

通信士　浜崎勇信

通信士　川辺昇

通信士　田本正彦

壹 第三六〇号

上海憲警第四三二號

航空許可證ヲ交付シタル件通牒

昭和十六年六月二十八日

上海憲兵隊本部

陸軍省副官部　御中

首題ノ件別紙ノ通リ中華航空株式會社ニ交付シタルニ付受領證添付通牒ス

（了）

發送先

陸軍省

陸軍

陸軍省 昭和16.7.7. 午後 大臣官房

陸軍省 16.7.1 534 防衛課

22605

受領證

一、陸普第四六一二號上海ー臺北ー廣東航空許可證

右正ニ受領仕候也

昭和十六年六月二十六日

中華航空株式會社
常務理事　安邊浩

陸軍省副官　川原直一殿

中華航空株式會社

第一五號

(裁決)行決 覽回後	帶運	決行指定	決裁指定	保存期限
局(部)長	局(部)長	局長委任	三等	受領番號
		大臣 委	件名	壹受第三〇〇三號
		官次 委	政務次官	外國人工場參觀ノ件
課長	課長	長局務主	高級副官	參與官
	銃砲	長課務主	副官	書記官
		員課務主	主務	
		大臣官房	主務局課	起元廳(課名)
		了結 昭和 年	受領 昭和 年	提出 昭和六年六月拾貳日	受領 昭和 年 月 日	番號 主務課第五一三號

政務官書記官 回付(決行前) 拾年保 (決行後)

審案筆記者 陸軍

株式会社神戸製鋼所門司工場

副官ヨリ株式會社神戸製鋼所
門司工場長宛電報

五月二十九日附神鋼門司一六第二五〇號滿
洲國人貴社工場見學ノ件秋匿箇所ヲ
除キ許可セラル

陸普電一〇六

昭和拾六年六月拾貳日

副官ヨリ兵器本部總務部長海軍省
副官、憲兵司令部本部長宛通牒

（陸　普）

別紙株式會社滿洲鑄鋼所滿人工員ニ對シ

陸軍

來ル六月十三日株式會社神戸製鋼所門司工場見學許可セラレタルニ付承知相成度

追テ見學範圍ハ第三類ニ付申添フ

陸普第四三八一號　昭和拾六年六月拾貳日

大阪陸軍造兵廠經由
陸軍兵器本部經由
神鋼門庶一六第二五〇號

外國人工場參觀セシメ度件御願

昭和十六年五月廿九日

陸軍大臣　東條英機　殿

今般弊工場ニ於テ工場施設ノ指導ノ爲左記ノ通リ參觀セシメ度ニ付
御許可相成度別紙滿洲國鞍山市警務處長ノ居住證明書（滿洲國ニハ
未ダ戸籍法ノ制定ナキ爲メ身分證明書ハ取扱ハレ居ラズ候）相添ヘ
此段奉願候也

門司市大字小森江五百五拾貳番地ノ壱
株式會社神戸製鋼所門司工場
工場長　池田英雄

工場監理官印

大阪陸軍造兵廠
陸軍出
第七三號
六月三日

陸軍
兵器本部
昭和16年6月10日
經由第五八八號

陸軍省
16.6.11
軍務課

六月十二日　株式會社神戸製鋼所
門司工場　貴殿ノ御申出ノ件
依配案ノ通
陸軍省軍務局軍務課

記

一、參觀者ノ國籍　滿洲國

二、參觀者ノ身分又ハ職業氏名　別紙ノ通リ

三、參觀ノ目的　內地產業文化視察ノ爲メ

四、參觀ノ期間　昭和十六年六月十三日

五、參觀ノ範圍　丙敷地ヲ除ク各工場

六、其ノ他參考事項

株式會社滿洲鑄鋼所ハ弊社ノ分身會社ニシテ今回全社工員ノ技術指導ノ爲メ中堅工員十一名ヲ內地ニ派遣シ我國ノ文化ヲ見學セシムルコトヽ相成リタルモノナリ

一、參觀許否ニ對スル工場監督官ノ意見

許可相成リ支障ナキモノト認ム

昭和十六年五月卅日

神戸製鋼所門司工場常駐
陸軍兵器檢査官
陸軍兵技中尉　野間知良

堅眉

二、參謀許否ニ對スル大阪陸軍造兵廠ノ意見

差支ナキ意見

三、陸軍兵器本部ノ意見

差支なき意見

居住證明願

弊社滿八工員十一名ハ今回日本文化ノ視察及工場見學ノタメ門司、神戸、名古屋、東京、唐河方面ニ旅行致シ神戸製鋼所關係工場見學上必要有之候居所ニ居住致シ居ルコトヲ御證明被下度此段奉願候也

記

於日華氏名

本籍地	現住所	職名	氏名	年齢	生年月日
關東州旅順大黑山街	鞍山市後立山滿鐵社宅六ノ四	通譯	劉孝先	廿九	民國二年三月七日
奉天省奉天縣湖縣	奉天省西石橋子第六區西橋子	仕上	趙得深	廿一	宣統三年四月廿五日
奉天省奉天市內什街	〃〃〃 二七ノ二	旅館	張鈴志	廿四	光緒廿四年十一月一日
奉天省遼陽縣第八區	〃〃〃	〃	佟振國	廿七	民國四年七月十七日
奉天省遼陽縣第七區	〃〃〃 二ノ八	鑄物工	曹嘉猷	廿九	民國二年十一月十六日

鞍山市沙河營沙河村	〃	〃	二〇ノ二	〃	馬國棟
〃	〃	〃	〃	〃	廿
一五十一號	左箇地ニ同ジ	〃	〃	王占清	廿六
河北省撫寧縣上林路	鞍山市後立山三道街譚家伙房	平	爐	尤耀廷	廿八
山東省濟南府	〃	〃	〃	張秉雲	廿六
奉天省遼平縣一區	清鎮東山莊宅一〇人	銀	工	王光泰	廿
青石嶺村第壹號	〃	〃	〃	〃	〃
奉天省遼陽縣	〃	〃	〃	〃	〃
第九區北村	〃	〃	二七ノ四	電	工
柳洞倉	廿九	民國二年十月一日			

東京八年五月十五日

鞍山市役所

小出市郎 衛殿

鞍山市語和街一丁目
株式會社滿鐵鞍山所
鞍務取締役 四子富彦

右證明如

康德8年5月26日

鞍山市警務處長 小岩井諫衛

引卒者並赴日者氏名

康德八年五月　鞍山市昭和街壹段

株式會社滿洲鑄鋼所

引卒者

本籍地	現住所	職業	氏名	年齢	生年月日
石川縣羽咋郡一ノ宮村子ノ四四	鞍山市南十四條町三〇ノ五七	株式會社滿洲鑄鋼所	鞠谷直躍	卅八	明治三十七年十月十日
大阪市浪速區反物町一、三二七	鞍山市南十四條町三〇ノ三	〃	柏谷繁吉	四二	明治三十三年九月十五日

赴日者氏名

本籍地	現住所	職名	氏名	年齢	生年月日
關東州貔子窩會大草市街	鞍山市後立山滿鑄社宅十九ノ五	通譯	刘孝先	廿九	民國二年三月七日

奉天省本溪湖縣第六署石橋子	〃〃	一ノ三	仕上	趙潤深	卅一	宣統三年四月五日
奉天省營口市內什街	〃〃	二七ノ一三	旋盤	張銘志	卅四	光緒卅四年十一月十一日
奉天省潘陽縣第八區蕭家樓村	〃〃	一ノ八	〃	佟振國	廿七	民國四年七月十七日
奉天省遼陽縣第七區腰馬圈子	〃〃	二ノ八	鑄物工	曹寡献	廿九	民國二年十一月十六日
鞍山市沙河區沙河村	〃〃	二〇ノ二	〃	馬國楠	卅	民國元年十月廿八日
〃	一甲一牌十一號	本籍地ニ同ジ	〃	王占清	廿六	民國五年九月十三日
河北省撫寧縣上林峪	鞍山市後立山三道街譚家伙房	平	鍛	尤耀廷	廿八	民國三年八月三日
山東省濟南府章邱縣龍化庄	〃滿鐵東山社宅 一〇ノ六	鍛	工	張乘雲	卅六	光緒卅二年三月十六日
奉天省蓋平縣一區青石嶺村刑墓窩屯	〃〃 一〇ノ五	〃	王兆聚	卅	民國元年十二月四日
奉天省遼陽縣第九區前杠村	〃〃 二七ノ九	電工	柳潤官	廿九	民國二年十一月二日

康德八年五月

引卒者並赴日者氏名

鞍山市昭和街壹段
株式會社滿洲鑛鋼所

引卒者

本籍地	現住所	職業	氏名	年齡	生年月日
石川縣羽咋郡一ノ宮村子ノ四四	鞍山市南十四條町三〇ノ廿七	鐵滿洲鑛鋼所員	鹽谷直踵	卅八	明治三十七年十月十日
大阪市浪速區反物町一三二七	鞍山市南十四條町三〇ノ三	〃社員	柏谷繁吉	四二	明治三十三年九月十五日

赴日者氏名

本籍地	現住所	職名	氏名	年齡	生年月日
關東州貔子窩會大草市街	鞍山市後立山滿鑛社宅十九ノ廿	通譯	刘孝先	廿九	民國二年三月七日
奉天省本溪湖縣第六署石橋子	〃 一ノ三	仕上	趙潤深	卅一	宣統三年四月廿五日
奉天省營口市內什街	〃 二七ノ二	旋盤	張銘志	卅四	光緒廿四年十一月十一日
奉天省瀋陽縣第八區董家樓村	〃 一ノ八	〃	佟振國	廿七	民國四年七月十七日

奉天省遼陽縣 第七區腰馬圈子	鞍山市後立山滿鑛社宅 二ノ八	鑛物工	曹嘉猷	廿九	民國二年十一月十六日
鞍山市沙河區沙河村 〃	〃 〃 二〇ノ二	〃	馬國棟	卅	民國元年十月廿日
〃 一甲一牌十一號	本籍地ニ同ジ	〃	王占清	廿六	民國九年九月十三日
河北省撫寧縣上林船	鞍山市後立山三道街譚家伙房	平爐工	尤耀廷	廿八	民國三年八月三日
山東省濟南府章邱縣龍化庄	〃 滿鑛東山社宅 二〇ノ六	鍛工	張乘雩	卅六	光緒卅三年三月十六日
奉天省蓋平縣一區青石嶺村飛雲窪宅	〃 〃 一〇ノ五	〃	王兆榮	卅	民國元年十二月四日
奉天省遼陽縣第九區前杠村	〃 〃 二〇ノ九	電工	柳潤宣	廿九	民國二年十一月二日

兵器本部經由
大阪陸軍造兵廠經由
神鋼門廠一六第二二八四號

滿洲國人當工場參觀實施狀況ノ件報告

昭和十六年六月十六日

陸軍大臣　東條英機　殿

昭和十六年六月十二日附陸副官電第一〇六號ヲ以テ御許可相受候首題ノ件ニ關シ左記ノ通リ實施セシメ候條此段及御報告候也

第三〇〇三號
陸軍
兵器本部
經由第二二九
軍
昭和16年7月
日
工場監督官認印
工場代表者ノ認印
大阪陸軍造兵廠
經由第八〇號
昭和十六年六月九日
陸軍省
16.7.
877
軍務課
1,3003

記

一、參觀日時　昭和十六年六月十三日　自午前八時十分至午前十時十分

二、參觀者ノ國籍身分又ハ職業氏名

(イ)國籍　滿洲國

(ロ)身分　滿洲國鞍山市昭和街壹段

(ハ)氏名　株式會社滿洲鑄鋼所工員

通譯　劉孝先

仕上工　趙潤深

旋盤工　張銘志

仝　佟振國

鑄物工　曹嘉猷

仝　馬國棟

仝　王占清

平爐工　尤爛廷

鍛工　張乘雲

仝　王兆泰

電工	柳澗宣		
引率者	皇谷直藏	三、見學セシ工場名	第一工場（熔解工場）　第二工場（管棒工場） 第三工場（熔解工場）　第六工場（板工場） 第八工場（管工場）　鍛造工場、利材工場、 試驗室及研究室、　青年學校講堂
同社々員	野崎龍三	四、案内者若ハ説明者ノ身分又ハ職業氏名	(イ)挨拶　伸銅部次長 (ロ)説明並ニ案内　檢査課長
仝社員	柏谷繁吉		豊田清三
		五、説明並ニ應答事項	(イ)説明 神戸製鋼所門司工場ニ於ケル業種別即チ（非鐵合金）鋼 黄銅、青銅、特殊青銅ノ製造並ニ其ノ製造方

式ヲ説明ス

(ロ)着眼

(イ)ノ説明ニ對シ刘通譯ハ説明ノ細微ニ亘リ之ヲ各員ニ通譯シ滿人ノ國民性トシテ銅及銅合金ニ對スル歡心ハ頗ル興味アルモノヽ如ク殊ニ積載ノ各種製品ニ對シ驚異ノ眼ヲ以テ見學セリ

(ハ)見學中ノ應答事項

ナシ

(ニ)見學終了後應接室ニ於ケル應答事項

豊田課長

今回内地各地ヲ見學セラレタルガ其感想ハ

刘通譯ヲシテ

(1)内地ニ上陸シテ先第一ニ交通整理及道路其他ノ清潔ナルコトニ驚キタリ

(2)滿洲デハ各工場共女工ヲ使役シテ居ルノヲ見ナイガ内地ニ於テハ各工場共多數ノ女工ヲ使役シ然モ男工ニ負ケナイ働キ振リニハ感心セリ

(8)内地ノ各工場ニ於ケル機械ノ設備ノ割合ニ職工數ノ少キ事ニ驚キタリ

豊田課長

滿人ハ日本語ノ勉强ヲシテ居ラル、ヤ又貴工場ノ作業（勤務）狀態ハ如何

引率者

豊谷直蔵

(1)滿人ノ日本語勉强ハ國民學校以外ニハ受敎シオラズ又工場ニ作業中ハ餘リ不自由ヲ感ゼズ

(2)當工場ノ作業ハ晝勤（午后五時ヲ定時トス）ト徹夜ニ區別シ作業シ居リ其ノ夜勤率ハ五ー六%ナリ

(3)平均月收ハ五〇圓ー六〇圓トナリオレリ

(4)一般ニ滿洲ニ於ケル工員ノ昇勤ハ實ニ苦ダシキモノナルガ當工場ハ割合ニ低少ノ方ニシテ年間八〇%ー九〇%ナリ、最モ苦ダシキ工場ニテハ二五〇%ニ上レリ

豊田課長

御別レニ臨ミ日滿兩國ハ一體トナツテ興亞事業完遂ノ

六感想	爲メ協力進進ノ必要ト當工場ニ於ケル從業員一同ノ此ノ目的遂行ノ爲メ工業報國ノ誠ヲ可致一意專心努力中ナリ、貴工場ニ於レテモ一層御協力ヲ御願シタシト力說シタルニ對シ刻速諾ヲシテ一同强ク感動シ必ズオ書中シタシトナ退場セリ 當工場内外ノ整理、整頓及女工員ノ長拳ナル働キ振リニ對シ深ク感動ヲ受ケタルモノヽ如シ
七其他參考事項	當日ハ早朝門司入港ノあるぜんちな丸ニテ上陸シ門司稅關埠頭ヨリ市内機樹通リヲ經テ九軌電車路線ニ副ヒ二列行進体側徒步ニテ午前八時十分當工場（來場セリ 當工場ノ參觀ヲ午前十時ニ終了シ小森江停留所（門司工場前）ヨリ九軌電車ニテ門司驛前ニ向ケ出發時間ノ都合ニ依リ（あるぜんちな丸ハ午后二時出帆）市内見物ノ上當船シ一路大連ニ向ケ出帆ノ豫定ナリ

號六一第

保存期限	決裁指定	決行指定
三年	委任	

政務官書記官 回付（決行前）

拾年保

（決行後）

受領番號	件名
壹受第三〇九號	滿蒙留學生陸軍造兵廠見學ノ件

起元廳（課名）は 總本山知恩院

審査筆記者 陸軍

大臣 委

政務次官 委

官次 委

參與官 高級副官 主務局長

書記官 主務副官 主務課長

主務課員

主務局課 番號 第五四三號

受領 昭和 年 月 日

提出 昭和拾六年六月拾八日

大臣官房 受領 昭和 年 六月十八日

結了 昭和 年 七月 日

決行（裁決）回覧後	帶	連
局(部)長	長（部）局	

長課 長課

銃砲

（陸普）

副官ヨリ大阪陸軍造兵廠長宛通牒

首題ノ件別紙ノ通許可セラレタルニ付便宜伺ハレ與相煩シ度

陸普第四五九九號　昭和拾六年六月拾九日

副官ヨリ兵器本部總務部長、憲兵司令部本部長宛通牒

前同文但シ内ヲ承知相成度ノニ作ル

陸普第四五九九號　昭和拾六年六月拾九日

副官ヨリ總本山知恩院門跡執事長宛同答

六月十二日附願出ニ係ル首題ノ件別紙ノ通許可セラレ候ニ付承知相成度

陸普第四五九九號　昭和拾六年六月拾九日

別紙

一、見學者　滿蒙留學生陸軍造兵廠見學ノ件

引率者　陸軍中尉　片岡芳太郎

〃　訓育主任　橋爪義隆

滿蒙留學生　二十名

一、見學日時及場所

六月二十七日　午前　大阪陸軍造兵廠

備考

見學ノ範圍ハ軍用資源祕密保護法ニ依ル祕匿箇所ヲ除ク

陸軍

見學ノ難關ハ軍用資源秘密ニ關スル所謂防諜ニ外ナラス

備考

六月二十七日　午前　大阪師團戰車隊兵舎

六月二十七日　見學日時及場所

蘭領蘭印留學生　二十名

任務　蘭印軍中尉　八木義雄

同率者　陸軍大尉　岡芳

見學者

蘭領蘭印留學生陸軍憲兵隊見學ノ件

別紙

第一九九號

陸軍省 16.6.14 前午 大臣官房

滿蒙留學生陸軍造兵廠見學ノ件願

昭和十六年六月十二日

總本山知恩院門跡執事長

小林圓

陸軍大臣東條英機殿

當院ニ留學中ノ第二回滿蒙留學生ニ對シ皇國日本造兵眞價ヲ認識致サセ教育資材ト致度候條時節柄御差支ヘナキ範圍ニ於テ大阪陸軍造兵廠見學ノ件特別ノ御詮議ヲ以テ御許可相成度此段及願出候也

追而先般大阪造兵廠長官宛願出候處別紙ノ通リ回答有之申添ヘ候

知恩院

陸軍省 16.6.14

六月二十七日 午前 大阪陸軍造兵廠見學希望ニ付申意見申ノ度

鈴木陸軍省軍事課

陸軍省軍務局軍務課

左記

日　昭和十六年六月下旬（御指定ノ日時ニテ差支無之候）

人員　滿蒙留學生　二十名

引率者　陸軍中尉　片岡芳太郎

同　訓育主任　橋爪義隆

知恩院

號外　滿蒙留學生當廠見學ノ件回答

昭和十六年六月十日

大阪陸軍造兵廠庶務課長奥田佐七

總本山知恩院門跡執事長

小林圓達殿

六月五日附願出相成候首題ノ件一應了承致候然ル處外國人ノ見學ハ其ノ筋ニ於テ定メラレタル規定アリテ代表者ヨリ陸軍大臣ニ出願ヲ要シ當廠限リニテハ御來意ニ應ジ得ザルニ付可然手續相成度及回答候也